

私たちが打ち込んだもの紹介します サークル・授業・etc



今年度、卒業する学生に4年間打ち込んだもの・サークルや授業についてインタビューを行いました。充実した4年間で参考にしてください。

- 石倉友美さん(国際研修館・学生アシスタント)
- 西村和高さん(二部法律学科)
- 矢野僚子さん(鳳祭実行委員会)
- 平山大介くん(放送研究会AREA)
- 鈴木晴美さん(スウィングジャズ研究会)
- 兼子央くん(柔道部)

【ニュー
ス専
修3月
号8面】

私たちが打ち込んだもの紹介します サークル・授業・etc

寝食共にし 留学生を支援

国際研修館・学生アシスタント 石倉 友美さん 3面、川島記念学術賞の項参照



今年1月に開かれた冬期プログラムの歓迎会で
(右から2人目が石倉さん)

世界中の国や地域から訪れる短期留学生のための宿泊寮・国際研修館で、住み込みの学生アシスタント(レジデント・アシスタント)を約2年務めました。ここでのさまざまな出会いは、素敵な思い出をたくさん残してくれました。つねにポジティブに取り組む留学生のみなさんに、心から「ありがとう」とお礼を言いたいです。

年に3回開講される「日本語・日本事情プログラム」を受講する短期留学生と寝食を共にし、日本での勉学、生活が滞りなく、気持ちよく出来るよう、準備や支援をするのが私たち学生アシスタントの役目です。外に出て近所のお店を案内したり、宿題のサポートや深夜・早朝を問わずの急病に対処し病院に付き添うこともあります。短期留学生にとって、学生アシスタントは「イコール日本人」の存在ですから、どんな時も相手を思いやる気持ち、優しさで笑顔で接することが、大切だと心がけています。

仲良くなった留学生たちから「研修館での生活はすごく楽しかった」「親切にしてくれてありがとう」と言われると、本当にうれしいです。最後は涙のお別れになりますが、ここで知り合ったお友だちの国へ、今度は私が訪ねて行くことを楽しみにしています。

■石倉友美さん(国際研修館・学生アシスタント) ■西村和高さん(二部法律学科) ■矢野僚子さん(鳳祭実行委員会) ■平山大介くん(放送研究会AREA) ■鈴木晴美さん(スウィングジャズ研究会) ■兼子央くん(柔道部)

【ニュース専修3月号8面】

私たちが打ち込んだもの紹介します サークル・授業・etc

病と戦い「学ぶ」喜び知る

二部法学部 西村 和高さん 前田政宏ゼミ、佐賀県龍谷高



前田ゼミで(左が西村さん)

都内の郵便局職員だった6年前、親権、相続のことなど法に関する質問にもきちんと答えたいという動機から二部法学部に入学しました。在学中、体をこわし視力が無くなる寸前となり、退職、休学、入院・手術を経て復学。6年がかりで卒業を迎えることが出来ました。病と戦い苦労したことは事実ですが、教職員の皆さん、共に学んだ仲間たちからそれ以上の多大なものを得た学生生活でした。

特に一コマ一コマに「勝負」していると感じられる情熱を持った先生の講義では、常に一番前に座り、一言一句聞き漏らすまいという気持ちで授業に臨みました。学ぶことへのワクワクする気持ち、それがまた次の授業への期待に膨らみます。

半面、先生と学生との間で、もっと双方向のやり取りがあってもいいのではなかったこともあります。タイムリーなニュースや身近な事例を授業に取り上げてくれると、より学問への興味がわくのではないかと感じたこともありました。勉学が実務に絡み、学んだことが職場で実感出来るのが二部の特権ですから。さまざまな世界で働いている人と知り合うことで視野が広がったことも、夜間で学んだからこそそのメリットです。

卒業後は、なにか人の役にたつことをと考えています。それがお世話になった皆さんへの恩返しだと思っています。

■石倉友美さん(国際研修館・学生アシスタント) ■西村和高さん(二部法律学科) ■矢野僚子さん(鳳祭実行委員会) ■平山大介くん(放送研究会AREA) ■鈴木晴美さん(スウィングジャズ研究会) ■兼子央くん(柔道部)

【ニュース専修3月号8面】

私たちが打ち込んだもの紹介します サークル・授業・etc

実行委員会全員で学園祭盛り上げ

鳳祭実行委員会 矢野 僚子さん 法律学科、東京都狛江高



1年次の鳳祭当日、実行委員の宿泊場所で企画局の仲間と(左端が矢野さん)

もともとお祭り好きで、「自分の手で学園祭を盛り上げよう！」と参加しました。楽しいことも辛いこともありますが、私にとって鳳祭実行委員会での活動は特別なもの。中でも、ぶつかったり、ケンカしながら分かり合えた仲間との思い出が一番の財産です。

約40人の実行委員が、広報、庶務、企画、装飾の4局に分かれて活動。1、2年次生が中心になって活動し、3年次以降はフォローに回ります。

ます。

私は創立121年、122年鳳祭で企画局員として活動しました。無我夢中だった1年次より、周りのことを考えながら活動していた2年次の方が印象深いです。

後夜祭の企画を担当したのですが、より良い鳳祭にしようという思いから、局員同士での意見の衝突も。相手の話を聞くことに気を配り、取り入れるべき点は企画に反映させるように心がけました。教職員、企業の方、タレントなどと接し、信頼関係を築き、維持することの大切さを学びました。

ゲストの接待も担当。特に印象深かったのが3年前のナポレオンズのお二人で、控え室前で待機していてステージを見ることが出来なかった私たちに、廊下で簡単なマジックを披露してくれた時はうれしかったです。

■石倉友美さん(国際研修館・学生アシスタント) ■西村和高さん(二部法律学科) ■矢野僚子さん(鳳祭実行委員会) ■平山大介くん(放送研究会AREA) ■鈴木晴美さん(スウィングジャズ研究会) ■兼子央くん(柔道部)

【ニュース専修3月号8面】

私たちが打ち込んだもの紹介します サークル・授業・etc

監督、カメラ回し、裏方…生田緑地で真冬の撮影も

放送研究会AREA 平山 大介くん 国文学科、福島県福島高＝専修大学大学院進学



特設のAREA STATIONで行われる鳳祭恒例の「サークル対抗アームレスリング」(02年鳳祭から)

サークル勧誘で、先輩たちが放送機材のセッティングなどを行っている姿を見て「楽しそうだな」と思い、入会しました。

放送研究会は、黒門祭や鳳祭、他大学と合同で行なうクリスマス番組発表会に向け、バラエティー番組や、プロモーションビデオ(PV)などを製作。各自で企画を立て、週2回のミーティングで打ち合わせを行い、部員の協力を得て撮影しますが、大学で初めて経験する人がほとんどで、収録、編集などの技術は先輩に習いながらレベルアップしていきます。

自分で監督し、カメラを回した生田緑地でのPV撮影が最も印象に残っています。15分ものを撮るために3日間、真冬の夜で凍えながら撮影しました。編集は部員に協力してもらい、約1カ月で完成させ、無事上映出来た時はうれしかったです。

3年次の鳳祭も忘れられません。副会長だった私は、機材の準備など裏方の仕事を率先して引き受けました。最後に恒例の風船を上げた後、OBや後輩たちに囲まれて引退式を行ったのですが、3年間の活動が思い出され、感動しました。

サークル活動を通じてメディアへの興味が強まりました。AREAでの活動を生かし、将来はマスコミやメディアなどで働ければと思います。

■石倉友美さん(国際研修館・学生アシスタント) ■西村和高さん(二部法律学科) ■矢野僚子さん(鳳祭実行委員会) ■平山大介くん(放送研究会AREA) ■鈴木晴美さん(スウィングジャズ研究会) ■兼子央くん(柔道部)

【ニュース専修3月号8面】

私たちが打ち込んだもの紹介します サークル・授業・etc

「音」をつかんで魅力増す

スウィングジャズ研究会 鈴木 春美さん 経営学科、東京都北園高



生田会館で練習に励む鈴木さん

躍動感あふれるスウィングジャズにのめりこんだ学生生活でした。楽器はテナーサクソ。初めて手にした時、すんなり音が出たことで「これだ」と思いました。

好きなアーティストはスコット・ハミルトンとズート・シムズ。憧れのプレイヤーに少しでも近づきたいと練習を重ね、4年次になってようやく自分の「音」が出せるようになってからは、演奏するのがたまらなく楽しくなりました。そうすると、それぞれの技を生かす合奏の場での面白さが倍増。これぞホーンとリズム楽器が織り成すビッグバンドの醍醐味です。

会員は約40人。3年次には、個性豊かなメンバーをまとめる代表を務めました。レパートリーはカウントベイシー・オーケストラ、秋吉敏子バンド、チャールズ・ミンガスバンドのオリジナル。大会やジョイントを含め、年間10回近いステージをこなします。

大きなものでは、夏には50校近くが出場する学生ジャズ最大の「山野ビッグバンドジャズコンテスト」に出場、春には1年間の集大成といえるリサイタルを新宿のライブハウスで開きます。これは4年次生にとって最後の思い出ライブに。

メンバーあつての4年間でした。同期をはじめみんなに感謝しております。

ジャズは私にとって息抜きであり、大きな支えでもありました。大事なものに出会えました。

■石倉友美さん(国際研修館・学生アシスタント) ■西村和高さん(二部法律学科) ■矢野僚子さん(鳳祭実行委員会) ■平山大介くん(放送研究会AREA) ■鈴木晴美さん(スウィングジャズ研究会) ■兼子央くん(柔道部)

【ニュース専修3月号8面】

私たちが打ち込んだもの紹介します サークル・授業・etc

フランス遠征で親善試合

柔道部 兼子 央(なかば)くん 経営学科、山形県山形工業高

柔道を始めたのは小学校3年の時。兄と弟と近くの道場に通って、競いながら続けてきました。

専大では4年次で主将となり、練習は厳しく、それ以外は先輩・後輩の壁をなくして何でも話し合えるような環境を心がけました。

夏期合宿は毎年、山梨県の身延山で行います。アップダウンの厳しい地形を生かして、山登りや階段登りなどの体力作りと基本練習が中心で、とにかく厳しい稽古でしたが、それを乗り越えたことで体力が急にアップしたような気がします。

千葉県・勝浦にある国際武道大学での春期合宿では他大学や実業団、警察官などと合同練習で、実戦中心で鍛えられました。

03年(平15)3月のフランス遠征も得がたい経験です。フキエール市内にホームステイしながら、現地の道場で練習し、親善大会にも出場しました。心配していたコミュニケーションも、つたない英語で何とかクリア。フキエール市長を表敬訪問し、熱い歓迎を受けました。

部の成績は低迷気味で、昨年の東京都学生柔道大会で2部に降格してしまったので、後輩たちには「勝つ」という強い姿勢をもって、1部復帰を果たしてほしいです。

■石倉友美さん(国際研修館・学生アシスタント) ■西村和高さん(二部法律学科) ■矢野僚子さん(鳳祭実行委員会) ■平山大介くん(放送研究会AREA) ■鈴木晴美さん(スウィングジャズ研究会) ■兼子央くん(柔道部)

【ニュース専修3月号8面】